

令和六年度 専修学校山梨予備校 入学式 あいさつ

皆さん、ようこそ山梨予備校へおいでくださいました。教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。予備校の使命は、来春の志望校合格に向けて頑張る皆さんをサポートすることです。それは共に歩むことであると考えます。私たち教職員は、これから皆さんと共に歩んでいけることをたいへん光栄に思っています。

私にも予備校生の経験があります。受験した二つの大学が不合格だったからです。予備校に通った時代はその後の人生の支えになりました。予備校は必要に迫られて仕方なく行く所、そう思っていた私は、合否結果を抜きにして予備校時代の記憶に生涯支えられることになるとは想像することもできませんでした。

過去の記憶に支えられる。私は年齢を重ね、確かにそうだよなあ、とつくづく実感し、そう実感できる今の自分の年齢が好きです。これは若い人に対する負け惜しみではありません。皆さんも将来の自分が今の自分の経験を時間の経過、人生経験の積み重ねとともに様々な意味をもって振り返ることになると思います。

さて本日はお願いを四つ申し上げます。一九六七年、歌手ちあきなおみさんの「四つのお願い」という歌がヒットしました。当時小学二年生、まだ素直だった私は、何かをお願いする際は、当然そのお願いは四つなければいけないと理解し、以来、三つや五つのお願いでは気持ちが落ち着かない体になってしまいました。

まず一つ目は、「今の自分を生きる」ということです。本来なら大学で新しい勉強をしているはずなのに…と、ため息をつく、これでは今の自分を生きているとはいえません。受験勉強は人生の準備ではなく人生の本番です。勉強の内容も、そして勉強に対する姿勢も、これから人生を生きていく自分そのものなのです。

次に二つ目は、「自分を大切にすることです。皆さんは山梨予備校で頑張ろうと、本日この場に臨んでいます。この気持ちを大切にしてほしいのほもちろんですが、自分の気持ち以上に、どんな気持ちの時でも自分という存在を大切にしてください。気持ちの揺らぎを抱えつつも、精一杯生きてほしいのです。

三つ目は、「自分を信じる」ということです。皆さん、自分の底力を信じてください。自分でも気づけない底力があなたにはあるのです。私たちが現に今、生かして支えてくれる、そういう力の存在を信じてください。自分を信じる人はどんな状況下でも自分を卑下したり誇示したりせず、大らかに力を発揮する人です。

ここまで自分、自分、自分と執拗に続けました。しかし自分を意識しない時こそ実はこれらの願いが叶っているのです。そこで「自分を忘れる」が最後のお願いです。自分という意識が出たり引っ込んだりを繰り返す人生で自分を忘れてひたすら机に向かう山梨予備校での日常が、将来、いつ振り返っても、皆さんの人生のひとときわ輝く一時期となっていることを心から願い、あいさつとします。

令和六年四月十五日

山梨予備校 校長 齊木 邦彦